別紙様式1

令和2年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　学校名　三原市立西小学校　校番（ 05 ）

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き， 夢の実現に向け自ら学びを求め，行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　地域・保護者の信頼を得，心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・教職員の時間管理能力の向上 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選及び学校行事等の見直しや改善	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	88.0%		88%	B	○各月45時間を超えない 4月0/25人　5月0/25人　6月15/25人　7月0/25人 8月0/25人　9月　3/25人	○教職員の時間管理能力の向上を図る。 ・1週間の時間外勤務時間の把握と今後の計画の作成 ○管理職による勤務時間の把握と指導 ・個々の勤務時間の把握と個別の指導	○			○児童と関わる時間は大切にしてほしいと思う。 ○もっと予算をつけて人的に余力をつけなければ100%の達成は難しいと思われる。 ○コロナ禍において体制の構築は難あり。自己の改革が急務。
確かな学力の育成	主体的に学び合う児童を育成し，学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して，本校で育成を目指す資質・能力をもった，自ら学ぶ児童の育成を図る。	本校の研究主題に全員で取り組み，仮説の検証のために計画的な実践研究を行い，研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。	『主体的学び』に関する児童アンケート肯定的評価	85% 以上	83.0%		98%	B	・コロナウイルス感染症のため休校が続き，全学年の単元を含めて進めるという状況で，授業スタイルが確立できていない。その為，課題に対して問題を見つけたり，やってみたいという意欲をもったりできていない児童がいる。 ・自分の意見を「分かりやすく」伝えるという意識もまだ低い。（78%）	・児童の思考が繋がりやすいようにカリキュラムマネジメントを見直し，各教科との関連を図りながら課題発見の過程を重視した授業展開を行う。 ・単元の中に，「やってみたい」と意欲をもてる時間を仕組む。 ・自分の意見を，思考ツールを活用して書くなどして，話し合いに参加しやすくする。	○			○家庭を巻き込んだ教育活動は模索できないだろうか。 ○自己評価において，達成値に対して，評価が厳しいと思われる。 ○子供たちも限られたカリキュラムの中で問題点等を理解しつつ，成し遂げてゆく姿に驚嘆します。
			西小学校「家庭学習の手引き」をもとに保護者に対して家庭学習の協力を促し，家庭学習の習慣化と充実を図る。	『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・低　家庭学習時間定着率 ・中高　自主学習定着率	90% 以上	低学年 87．0% 中・高学年 76．0% 平均 81．5%		90%	B	・家庭学習や自主学習そのものには取り組んでいるが，より自主的な学習にまでは至っていない。 ・低学年は家庭学習には取り組んでいるが，30分時間いっぱいするという意識が低い。 ・自主学習について，「指定されたページ数を上回る」という指標を意識した指導が足りなかった。	・自主勉強でどのような学習に取り組めばよいか，クラスでよいお手本を提示するなどして意識づける。 ・頑張っていることを，シールを貼ったりポイントを付けたり，コメントを書いたり表などに表したりして，評価を可視化して児童の励みにする。	○			
			『西小がんばりタイム』を設定し，学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	①全国学力・学習状況調査全国平均値通過率 ②業者単元テスト国語科「読むこと」全国平均値通過率 ③標準学力調査全国平均値通過率	①②③ 80% 以上	① 国語　72．1% 算数　67．3% 平均　69．7%		87%	B	・全国学力では国語は,要旨をまとめること，算数では，考えを順序良くまとめることなどの定着が低い。	・各学年で正答率が悪かった問題や誤答の分析を行って課題を明らかにし，2学期からの復習時間を設けたり，再度同じ問題や類似問題に取り組み，定着を図る。	○			
						② 88．5%		110%	A	・1，2，4年生において目標値を達成することができたが，3，5，6年生において達成できなかった。最後まで解こうとする意欲が高まってきているが，まだ十分とは言えない。問題の意図や解答の仕方を理解できていないのが原因と考える。	・読みのプリントを週2回宿題として出して，様々な形式の問題に触れさせ，問題の意図を的確に読み取り，どのように解答したらよいか等を学ばせるようにしていく。・独自のフォローアップを作成し，取り組ませる。	○			
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して，社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して，豊かな感性・豊かな心の育成を図る。	学年（学級）ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組み，仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動（詩や短歌・俳句等の音読・暗唱）を通して，自己表現に自信を持たせる。	『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	低90% 中85% 高75% 以上	低85% 中73% 高76%		94%	B	高学年は，目標を達成することができた。しかし，低学年は目標値より5%，中学年は目標値より12%低い。全体的に自己肯定感が低くなっている。学校行事がなくなったことで，児童の学校生活への意欲が下がっていることが原因として考えられる。	学校活動や行事が制限されている中でも，学年で出来る活動を考える。また，学級では，特別活動を充実させ，児童が主体的に活動できるように仕組む。	○			○改善方策に大賛成。日々の活動に期待する。 ○豊かな心は保護者とのパートナーシップが必要であり，学校の取組としては現状として十分であると思う。 ○人間の内面に問う所大きく，特別活動とは何ぞやである。
		特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して，地域を想う心情を育てるとともに，社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	特色ある地域の学習材や人材の活用，交流を通して，「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み，社会貢献意識や規範意識の向上，お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して，ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。	『貢献意識』に関する児童アンケート肯定的評価	95% 以上	93.0%		98%	B	目標を達成することができなかったが，90%以上の児童が「人の役に立つ人間になりたい」と考えている。昨年度の肯定的評価は，95%であった。「自らへの自信」の課題と同じように，学校行事がなくなったり，ふるさと学習の活動が制限されたりしていることが児童の心の成長に影響していると考えられる。	一人一人に役割を持たせることで，自己存在感や自己有用感，自己存在感を高めていくようにする。また，「職員全体で全員の児童をみる」という意識を持ち，担任以外も児童に積極的に関わり，肯定的評価をしていく。	○			
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ，自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに，課題克服のための取組（校内研修，外部講師による児童への直接指導，小中連携等）を充実させ，教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②2学期に行った重点項目の自己目標達成率	① 75% 以上 ② 85% 以上	①立ち幅跳び 50% 反復横跳び 91.7%		94%	B	・反復横跳びについては，ほぼ全ての学年で県平均を上回ることができた。外部講師による職員研修等で動きのコツを伝えることができたためと考えられる。しかし，計測時期が例年より半年遅く，身体の成長に伴って記録が向上した可能性もあるので，次年度に向けて取組を行っていく。 ・立ち幅跳びについては，男女共に課題が見られた。長期休業による運動不足・筋力不足が原因と見られる。	・敏捷性・跳躍力等を意識したサーキットトレーニングや，外部講師の指導を活かした動きづくりを行っていく。 ・体育委員会等を活用して，体幹強化等を意識した家庭学習「体力アップ」の実施を定着させていく。	○			○教師はしっかりとマスクをしていたが，フェイスシールド・口元フェイスシールドの着用はどうだろうか。教師の顔の表情や言葉が聞き取りやすくなるのでは。 ○ハードルを上げてゆくことは必要なれど，やりたくてもどうしても出来ぬ事も出てきます。そうした事も一つの評価を与えるべきです。
		食教育や保健・安全教育の推進により，自己管理能力の育成を図る。	保健指導や委員会活動などを通して児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り，児童の自己管理能力の育成を図る。	『食育』『保健・安全』に関する児童アンケート肯定的評価	75% 以上	79.0%		105%	A	・「体を動かすことは楽しい」児童は91%，「進んで外遊びをしている児童」は70%であった。 ・「給食を時間内に食べきっている」児童は76%で，目標を達成しているものの，残食する児童は固定化している。コロナ禍の影響で，給食を食べる前に減らすことが難しいことも原因であると考えられる。	・「外遊び週間」等を設けて，児童が外遊びをするように働きかけていく。 ・時間配分を工夫させ，自分が食べられる物をできるだけ食べることも指導していく。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない
ハ：分からない。